

〔秋苑日涉〕六民間歲節上 正月一日謂之元日略○中 進齒固齒固猶言膠牙也、以白糝爲之、其狀如鏡、故俗呼糝曰鏡、累積釘盤以爲看食、進屠蘇酒、

〔荆楚歲時記〕正月一日略○中 進屠蘇酒膠牙錫略○中 按略○中 周處風土記曰、正旦當生吞雞子一枚、

謂之練形、膠牙者蓋以使其牢固不動、今北人亦如之、熬麻子大豆兼糖散之、案練化篇云、正月旦吞雞子赤豆七枚辟瘟氣、又肘後方云、旦及七日吞麻子小豆各二七枚消疾疫、張仲景方云、歲有惡氣中人、不幸便死、取大豆二七枚雞子白麻子酒吞之、然麻豆之設當起於此、梁有天下不食葷、荆自此不復食雞子、以從常則、

〔顏氏家訓〕下吾嘗患齒搖動欲落、飲食冷熱皆苦疼痛、見抱朴子牢固齒之法、早朝叩齒三百下爲良行之、數日即平愈、今恒持之、此輩小術無損於事、亦可修也、

〔土左日記〕元日なほおなじとまりなり略○中 いもあらめもはがためもなし、かうやうの物もなき國なり、もとめしもおかす、

〔鹽尻〕七雜羹齒固 或問、正月雜羹餅は古へよりある事か、曰、土佐日記を見るに、芋滑海藻等を齒固に用ること、云事あり、然ればいにしへはがための餅は、今の雜羹なるにや、堂上家には烹雜といふなり、

賢按、此說非なり、土佐日記齒固は餅の事にてはなし、大根のことなり、夫故船の中なれば、年の始に齒固もなしとあり、海藻の類はあれども、大根はなきと云ことなり、烹雜の事も誤れり、堂上にて烹雜と云は、こんにやくの煮しめのことなり、

〔源氏物語〕初音二十三春のおとゞのおまへとり分て、梅の香もみすの内の匂びに吹きまがひて、いける佛の御國と覺ゆ、さすがに打とけて、やすらかに住なしたまへり、さぶらふ人々もわかやかにすぐれたるを、姫君の御方にとえらせ給て、すこしおとなびたるかぎり、中々よししく、さう